

# レオポルド ワイス (政治家 ジャーナリスト、オーストリア) (パート1/2)

:

明:  
ドイツとヨーロッパにおいて最も威風凛々な新派の一つであるフランクフルト ツァイトゥングのある特派員がムスリムとなり、クルアンの意味を翻訳する。パート

目: [新改宗者ムスリムの逸著名人](#)

より: イブラヒム A.バワニ

日付: 06 Dec 2009

集日: 12 Dec 2009

ドイツとヨーロッパにおいて最も威風凛々な新派の一つであるフランクフルト ツァイトゥングのある特派員がムスリムとなり、クルアンの意味を翻訳する。パート1



ムハンマド アサドはレオポルド ワイスとして1900年7月、当オーストリア帝国で在籍

ランドであるリボフの街（ドイツでレンベルク）、に生まれました。彼はくくラビの系の子でしたが、弁士になった彼の父によりその系は崩れ途えました。アサド自身、家系のラビの格を得るような教育を底的に受けました。

1922年ワイスは、エルサレムの叔父を短期するつもりで、中へ向けてヨロッパを立ちました。その段ではワイスも彼の多くの同世代の者たち同、自分自身を不可知者だとし、宗教的な勉をする一方でユダヤ教のり所かられていました。彼は中においてアラブ人を知り、彼らに好意をもつようになりました。そしてイスラムがいかに彼らの生活において存在の意味、精神的なさ、そして心の平安を植え付けているのかということに心を打たれました。

22の若さで、ワイスは

ドイツとヨロッパにおいて最も威ある新の一つであるフランクフルツァイトウングの特派となりました。彼は

ジャーナリストとしてく旅し、庶民と交流し、ムスリムの知人とのし合いを持ち、またパレスチナ、エジプト、ヨルダン、シリア、イラク、イラン、アフガニスタンの党首らに会いました。

そして旅とを通して、その典、史、人々への理解が膨らんでいく中、ワイスのイスラムへの心はよりまりました。好奇心がそう促したのです。

ムハンマドアサド、すなわちレオポルドワイスは、1900年にオーストリアリバウ（のポランド）で生まれ、22のに初めて中をしまし彼はに、フランクフルト

ツァイトウング

の秀な外国人特派となり、イスラムへの改宗、北アフリカからはアフガニスタンにまでくまなく旅をし、イスラム世界で仕事に勤しみました。そして何年もの献身的な研究の..

彼は我々の代の主要なイスラム学者の一人となりました。パキスタンの建国、彼はイスラム部の指者に任命され、西パンジャブ、そしてに、国におけるパキスタンの代理の代表となりました。ムハンマドアサドの2の代表的著は：「イスラムの岐路」と「メ

ツカへの道」です。彼はまた、クルアンの英訳と月刊アラファトも出版しました。

Let us now turn to Asad' s own words on his conversion:

それでは、これから彼の改宗についてのアサド自身の言へと目を向けていきましょう

。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/165>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。